

# 安全データシート

作成日 2002年9月1日  
改定日 2010年5月1日  
2015年2月2日

製品名 : 液体苛性ソーダ(25%)

## 製品及び会社情報

製品名 液体苛性ソーダ 25%  
会社名 埼玉薬品株式会社  
住所 埼玉県さいたま市見沼区卸町1-43  
電話番号 048-686-5221  
FAX番号 048-686-3332  
整理番号 AHM-0901  
推奨用途及び使用上の制限事項 上下水道、食品添加物用、一般工業用

## 危険有害性の要約

### GHS分類

火薬類 : 分類対象外  
可燃性／引火性ガス : 分類対象外  
可燃性／引火性エアゾール : 分類対象外  
支燃性／酸化性ガス : 分類対象外  
高压ガス : 分類対象外  
引火性液体 : 区分外  
可燃性固体 : 分類対象外  
自己反応性化学品 : 分類対象外  
自然発火性液体 : 区分外  
自然発火性固体 : 分類対象外  
自己発熱性化学品 : 区分外  
水反応可燃性化学品 : 区分外  
酸化性液体 : 区分外  
酸化性固体 : 分類対象外  
有機過酸化物 : 分類対象外  
金属腐食性物質 : 区分1  
急性毒性(経口) : 区分3  
急性毒性(経皮) : 分類できない  
急性毒性(吸入:ガス) : 区分対象外  
急性毒性(吸入:蒸気) : 分類できない  
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト) : 分類できない  
皮膚腐食性／刺激性 : 区分1  
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 区分1  
呼吸器感作性 : 分類できない  
皮膚感作性 : 区分外  
生殖細胞変異原性 : 区分外  
発がん性 : 分類できない  
生殖毒性 : 分類できない  
標的臓器・全身毒性(単回暴露) : 区分1  
標的臓器・全身毒性(反復暴露) : 分類できない  
吸引性呼吸器有害性 : 分類できない  
環境に対する有害性  
・水生環境有害性(急性) : 区分3  
・水生環境有害性(慢性) : 区分外

・GHSラベル要素



- ・注意喚起語
- ・危険有害性情報

:危険  
:金属腐食の恐れ  
:飲み込むと有毒  
:重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷  
:臓器(呼吸器系)の障害  
:水生生物に有害

- ・注意書き

:【安全対策】  
・使用前にMSDSを読み安全注意を理解するまで取扱わないこと。  
・他の容器に移し替えないこと。  
・屋外または換気の良い場所でのみ使用し、ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
・取扱った後は、手、顔などをよく洗うこと。  
・指定された個人用保護具(安全帽、保護眼鏡、保護面、呼吸器用保護具、保護手袋、保護衣、保護長靴など)を着用すること。  
・環境への放出を避けること。  
:【救急処置】  
・飲み込んだ場合には、無理に吐かせず口をすすがせ、直ちに医師の手当てを受けさせること。  
・吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、直ちに医師の手当てを受けさせること。  
・眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて安易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。  
・皮膚(または髪)にかかった場合は、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を多量の水と石鹼で洗い、直ちに医師の手当てを受けること。  
・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。  
・飲み込んだり、吸入または接触したか、または暴露の懸念がある場合、気分が悪い時は医師の手当てを受けること。  
:【保管】  
・耐腐食性／耐腐食性内張りのある容器に保管すること。  
・施錠して保管すること。  
:【廃棄】  
・内容物または容器を廃棄する場合は、都道府県の規則に従うこと。  
・使用済みの容器は、他の用途に使用しないで適正に廃棄すること。  
その他の危険有害性 :特になし  
重要な徴候 :特になし  
想定される非常事態の概要 :特になし  
国／地域情報 :適用法令を参照

組成、成分情報

単一製品・混合物に区別 :単一製品  
化学名又は一般名 :水酸化ナトリウム(苛性ソーダ)  
成分及び含有量 :水酸化ナトリウム 25%以上  
化学式又は構造式 :NaOH  
官報公示整理番号 :化審法:(1)-410

労働安全衛生法通知対象物質 :319  
PRTR法 :該当しない  
CAS NO :1310-73-2

---

#### 応急処置

吸入した場合 :新鮮な空気が得られる場所に移し、医師の診断を受ける。  
皮膚に付着した場合 :直ちに多量の流水で十分に洗い続け、医師の診断を受ける。  
:医師の指示なしに油類や塗り薬を薬傷部に塗ってはならない。  
や塗り薬を薬傷部に塗ってはならない。  
目に入った場合 :直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗う。  
:コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。  
:できるだけ速く医師の診断を受ける。  
飲み込んだ場合 :直ちに医師に連絡すること。  
:口をすすぐこと。  
:被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。  
最も重要な徴候及び症状 :特になし  
応急措置をする者の保護 :有害物に触れないよう保護手袋等を着用する。誤飲及び吸入の被災者に人口呼吸をする場合には口対口法を用いてはいけぬ。逆流防止バルブのついたポケットマスクや医療用呼吸器を用いて人口呼吸を行う。  
医師に対する特別な注意事項 :特になし

---

#### 火災時の措置

消火剤 :この製品自体は、燃焼しない。  
使用してはならない消化剤 :特になし  
火災時の特有の危険有害性 :加熱されると腐食性及び毒性ヒュームを発生する恐れがある。  
:水分や水に接触すると、可燃性物質の発火に十分な熱を発生する。  
特有の消化方法 :消化作業は、風上から行う。  
消火を行う者の保護 :保護手袋、保護眼鏡、保護手袋、呼吸器等の保護具を着用する。

---

#### 漏出時の措置

人体に対する注意事項 :作業時には、保護眼鏡、保護手袋等の保護具を必ず着用する。  
:風下の人を避難させる。漏出した場所周辺にロープを張り、関係者以外の立ち入りを禁止する。  
環境に対する注意事項 :下水道、河川等に流出し、二次災害、環境汚染を起こさないよう注意する。  
除去方法 :少量の場合は、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。  
:大量の場合は、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。必要があればさらに、希塩酸、希硫酸などで中和する。  
下水溝、表流水、地下水に流してはいけぬ。  
二次災害の防止策 :特になし

---

#### 取扱い及び保管上の注意

取扱い :「暴露防止及び保護措置」に記載の保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したりガスを吸入しないようにする。  
:取扱いは換気のよい場所で行う。  
:漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりにミストを発生させない。  
:眼、皮膚、衣類に付けないこと。  
:「暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。

保管	: みだりに粉塵、ヒュームが発生しないように取扱う。
	: アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。
	: 火気注意。
	: 直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。
	: アルカリ性なので、酸性の製品とは同一場所に保管しない。
	: 軟鋼、銅、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、ステンレス、またはポリエチレン容器に保管する。

---

## 暴露防止措置

許容濃度	
ACGIH(2005年)	: 2mg/m <sup>3</sup> (Ceiling limit)
日本産業衛生学会	: 2mg/m <sup>3</sup> (最大許容濃度)
設備対策	: 取扱い場所近くに手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。 : ヒュームやミストが発生する場合には、局所排気装置を設置する。
管理濃度	: 設定されていない。
保護具	
呼吸器の保護具	: 防塵マスク、送気マスク、空気呼吸器等
手の保護具	: ゴム製手袋
目の保護具	: 保護眼鏡、顔面シールド等
皮膚及び体の保護具	: 安全靴、安全帽、保護衣、前掛け等
適切な衛生対策	: 作業後、手をよく洗い、うがいをしてから、飲食等をする。

---

## 物理／化学的性質

形状	: 高粘度性液体
色	: 無色透明
臭い	: 無臭
PH	: 14 (1mol/L)
融点／凝固点	: -10°C
沸点	: 112°C
初留点	: 知見なし
沸騰範囲	: 知見なし
引火点	: 不燃性
自然発火温度(発火点)	: 知見なし
燃焼性(固体、ガス)	: 不燃性
燃焼又は爆発範囲(下限)	: 知見なし
燃焼又は爆発範囲(上限)	: 知見なし
蒸気圧	: 知見なし
蒸気密度	: 知見なし
蒸発速度	: 知見なし
比重(相対密度)	: 1.267 (30/4°C)
溶解性	: 易溶(アルコール) : 易溶(グリセリン) : 無限大(水)
オクタノール／水分配係数	: 知見なし
分解温度	: 知見なし
その他のデータ	: 特になし

---

## 安定性及び反応性

安定性	: 通常の実験条件では安定であるが、空気中の炭酸ガスを吸収して容易に炭酸ナトリウムになる。
危険有害反応可能性	: アルカリ性なので、酸と反応し発熱する。 : アルミニウム、錫、亜鉛等の金属を侵し水素を発生し、これが空気と混合して引火

爆発することがある。  
避けるべき条件 : 直射日光、高温体との接触を避ける。  
混触危険物質 : 酸化剤、強酸、銅、亜鉛、アルミニウム及びこれらの合金。  
危険有害分解生成物 : 特になし

---

#### 有害性情報

急性毒性 : 325mg/kg 経口ラビット(LD50) SIDS  
皮膚腐食性/刺激性 : 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷。  
: ヒト皮膚に対して0.5%以上で刺激性を引き起こす。  
: ブタ皮膚に対して8%以上で腐食性を引き起こす。  
: ウサギ皮膚に対して5%/4時間で重度の壊死を引き起こす。  
眼に対する重篤な損傷/刺激性 : 重篤な眼の損傷。  
: ヒト眼に対して重篤な損傷を引き起こす。  
: ウサギ眼に対して1.2%以上で腐食性を引き起こす。  
呼吸器感作性/皮膚感作性 : ヒト皮膚での感作性試験においては感作性は認められなかった。  
変異原性(生殖細胞) : 陰性 エームステスト SIDS  
: in VIVOマウス骨髄小核試験: 陰性  
発がん性 : 知見なし  
生殖毒性 : 知見なし  
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露) : ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こす。  
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露) : 知見なし  
吸引力呼吸器有害性 : 知見なし

---

#### 環境影響情報

生態毒性  
魚類 : データなし  
甲殻類 : 40.4mg/L(48h) ネコゼミジンコ(EC50) SIDS  
藻類 : データなし  
残留性/分解性 : データなし  
生体蓄積性 : データなし  
土壌中の移動性 : データなし  
他の有害影響 : 知見のない項目が多いので、一般環境内への廃棄は行わない。

---

#### 廃棄上の注意

- ・都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
- ・水を加えて希薄な水溶液とし、酸(希塩酸、希硫酸)で中和した後、多量の水で希釈して処理する。
- ・廃アルカリは特別管理産業廃棄物に指定されており、収集運搬、処分は定められた基準に従って処理する。
- ・使用済み包装容器は内容物を完全に除去した後、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

---

#### 輸送上の注意

国際規制  
国連分類 : クラス8(腐食性物質)  
国連番号 : 1824 水酸化ナトリウム(水溶液)  
容器等級 : II  
海洋汚染物質 : 有害液体物質Y類  
応急措置指針番号 : 154 毒性物質/腐食性物質(不燃性)  
国内規制 : 適用法令を参照  
特別の安全対策 : 特になし

#### 輸送時の安全対策及び条件

- : 輸送前に容器の破損、腐食漏れ等がないことを確認する。
- : 該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。
- : 車両による運搬時は、運転者に必ずイエローカードを携帯させる。

---

#### 適用法令

- : 労働安全衛生法 労働安全衛生規則(安衛法)第326条に規定する腐食性液体
- : 労働安全衛生法第57条の2に規定される通知対象物
- : 毒劇法第2条別表第2 劇物
- : 海洋汚染防止法施行令別表第1 有害液体物質(Y類)
- : 航空法施行規則第194条危険物 告示別表第1 腐食性物質
- : 危規則第2, 3条危険物 告示別表第1 腐食性物質
- : 港則法施行規則第12条危険物 告示 腐食性物質
- : 食品衛生法(添加物):食品添加物製品

---

#### 引用文献

- : 産業衛生学雑誌 Vol.48(2006)
- : ACGIH、TLVs and BEIs Based on the Documentation of the Threshold Limit Values for Chemical Substances and Physical Agents & Biological Exposure Indices(2006)
- : Registry of Toxic Effects of Chemical Substances、NIOSH(2006)STNINTERNATIONAL
- : 作業環境評価基準(昭和63年労働省告示第79条)平成16年10月1日改正(厚生労働省告示第369号)
- : 緊急時応急措置指針「改訂版」(社)日本化学工業会(2003)(原著:北米緊急時応急措置指針2000年版)
- : 無機化学ハンドブック(技報堂)、化学便覧(日本化学会編)
- : SIDS(2002)
- : PATTY 5th(2001)

---

#### その他

- ・記載内容の取扱い  
全ての資料や文献を調査したわけではないため情報洩れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合には、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。  
なお、記載のデータや評価に関してはいかなる保証もなすものではありません。また、記載事項は通常取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。製品の譲渡時にはMSDSを添付して下さい。